

私たちの行動指針12ヶ条 その9

公私の区別を厳格にします。

私用電話、社内備品の流用、私用外出等、公私混同の最初のきっかけは小さな事から始まります。

「この程度なら」「みんなもしているから」という意識が知らぬ間に当たり前になっていきます。我々社員は、会社の一員であると同時に社会人であることを忘れてはならないのです。

そして企業も社会という公の中で成り立っているのです。健全な企業には、会社が儲かれば何をしても良いという価値観は無いのです。

一人一人が社会人としての自覚を持ち、自分自身にけじめをつけることが大切です。

特に上司が公私混同したときに、社内に悪い企業風土が芽生えます。社長、管理職は誰よりも公私の区別をはっきりとさせます。

税理士法人 タックスアンドマネジメント